

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡パラの家 (A棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	令和元年7月20日	評価結果市町村受理日	令和元年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000645-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士・ケアマネジャー・看護師の資格を取得した職員が多数働いている。定期的に利用者の身体状況を確認するカンファレンスや虐待防止の勉強会を取り入れ、質の高い介護が提供できるよう努めている。定期的に内科・心療内科の往診があり、医療面で不安なく過ごすことができている。また、地域ボランティアの協力も多く、様々なレクリエーションを提供できている。季節感を持って生活出来るよう城下町花火や春祭りなどの地域の祭りにも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医療法人の利点を最大限に活かし、介護・看護・医療が緊密に連携しながら、利用者が不安なく生活できるように支援している。また、今年度から、月に2回理学療法士が訪れ、利用者の身体機能の維持向上のための活動を行っている。多種のリハビリに加え、歴史をひも解く「郡上いろはカルタ」では、楽しみながら脳を刺激し、穏やかで笑顔の絶えない暮らしにつなげている。職員は有資格者が多く、連帯感も強固であり、離職者も少ない。管理者及び職員同士は意思の疎通もよく、共に働きたいのある職場環境づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。	理念について、カンファレンスの場で支援経過を検証しながら話し合い、職員間で共有している。利用者が住み慣れた地域の中で、「笑顔で、ゆっくりと、穏やかに」その人らしい生活が送れるよう、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や祭りへの参加、協力を行い地域の一員として交流を図っている。また、中高生の体験実習の受け入れや、各種ボランティアの参加を頂いている。	地域の諸行事や祭りなどに参加をしている。各種ボランティアや赤十字奉仕団も継続的に訪れており、中高生の職場体験も受け入れている。近隣には高齢者世帯も多く、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に回覧等で声を掛け、バラの家での活動に参加してもらうことで、認知症の人を理解してもらえるような取組を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。	運営推進会議は年に3回開催し、利用者も参加している。行政や地域代表者、家族が参加し、運営状況や活動計画等の報告と意見交換を行っている。事故や感染症対策についても、話し合いながら改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。	高齢福祉課の担当者とは、随時、相談できる関係を築いており、運営推進会議の中でも意見交換している。地域包括支援センターの担当者や市の介護相談員も定期的に訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを実施している。また身体拘束対策委員会を中心に3ヶ月に1回カンファレンスの中で身体拘束防止の勉強会を実施している。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。	身体拘束等適正化委員会を定期に開催している。身体拘束勉強会で拘束の弊害や不適切ケアについて、具体例を挙げながら、防止の為の工夫を話し合い、周知徹底している。マニュアルを整備し、職員一人ひとりがゆとりの気持ちを持って対応するよう努め、玄関の施錠は夜間のみとし、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることのないよう努めている。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に研修には参加しているが経験が、少なく支援できる体制が万全とは言えない。必要なケースが発生したら、地域包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、家族に近状報告書を送っている。また面会時に気楽に話ができる雰囲気を作れるよう努めている。家族に出来る限り運営推進委員会に参加して頂き全体的、個別的な話し合いを行っている。要望等は、カンファレンスで話し合い反映させている。	面会時や家族会、運営推進会議の際にも家族から意見を聞いている。毎月送る近況報告書でも意志の疎通を図れるよう努めている。事業所への意見については、遠慮がちな家族もあるが、雰囲気作りに努め、家族からの意見を引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。	管理者は、定例会議で職員からの意見を聞いている。リーダー的存在の職員は、管理者と職員との仲介役も担っている。職場環境の改善やケアに関する方針について話し合い、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職が上がることで昇給に反映させている。また、資格修得に向け会社が協力し、安心して資格が修得していけるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けれるよう支援している。日頃の業務の中でもアドバイスや指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。また関係機関の研修や勉強会の案内を業務日誌に掲示し自由に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接にて、施設内の見学や本人と話をすることで、本人の不安や要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接で、家族にも施設内の見学をしてもらい、現在家族が困っていることや、不安・要望などを聞き、その希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接で、本人や家族の希望・要望を聞き、必要とする支援を見極め、対応できるよう職員間で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として、利用者と一緒に作業をしたり、利用者の話に耳を傾け互いに関わる時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月1回のお便りで家族に報告している。また、本人の状態に変化があった場合は、電話連絡している。本人から希望があった場合は、家族に連絡し、面会や外出のお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の友人や知人が面会に来所されたときは、本人の居室でゆっくり話ができるよう支援している。また、家族にお願いして、馴染みの美容院へ外出している。	馴染みの城下町へ、ドライブを兼ねて出掛けている。ホームへ訪れるボランティアや医療関係者、介護相談員とも馴染みの関係が生まれている。地域の祭り際には、子ども神輿が廻り、利用者の楽しみとなっている。美容院や喫茶店へは、家族の協力を得て出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係・性格・嗜好・特技などの把握に努め、より良い関係を保ち、互いに楽しく生活出来るよう努めている。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、次のサービスへサマリーなどで情報を提供している。また、依頼があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、本人や周りの人との会話や表情から、思いや意向の把握に努め、職員間で業務日誌やカンファレンスの場で情報を共有している。	職員は、利用者との日常の関わりの中で、思いや意向を把握している。難聴がある人の場合は、表情や動きから汲み取っている。新たな気づきがあれば、職員間で共有し、本人の思いに沿った支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の今までの暮らしぶりを本人や家族から聞いたり、前のケアマネからも情報をもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人一人の暮らし方やできる力を把握し、職員間で話し合い、各自の残存能力や心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員を決め、本人や家族の希望や要望を聞き、カンファレンスで話し合い、ケアプランに反映させている。	担当職員を中心に介護記録を検討し、本人・家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。リハビリで体力を維持しながら、残存能力を発揮できるよう支援し、穏やかに、その人らしく過ごせるような計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、本人の言動・行動・他の方との関わり方など、介護記録に出来る限り具体的に記入し、職員間で情報を共有しケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況の変化に対応した支援の方法を職員間で話し合い支援している。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の状態を把握し、本人や家族の希望確認しながら主治医を決定している。主治医による定期的な往診を月に2回行っている。また、急変時は病院に付き添い受診の支援をしている。	本人・家族の希望を受け、同法人の医師をかりつけ医としている。定期的な往診があり、月に2回、市民病院の心療内科医による往診もある。職員の看護師と連携を密にし、適切な医療を受けられるよう支援し、利用者と家族が安心できるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2ユニットに1名配置し、夜間帯や急変時には連絡し指示を受けたり、状態によっては駆けつけてもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の身体状況や生活状況の情報を提供している。また、ケースワーカーと常に情報交換し、退院時には、スムーズに施設での生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。	重度化や終末期の方針は、口頭で契約時に説明し、同意を得ている。段階的に、本人・家族、主治医と話し合いながら支援方針を決定している。原則として、終末期の支援は行っていないが、検討課題となっている。	事業所の運営理念や医療体制の現状を踏まえ、今後、重度化や終末期の指針を作成し、終末ケアの体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故発生時に備え、24時間対応出来るように医療連携体制をとっている。事故発生時には、事故報告書を作成し、職員間で共有し対策を検討している。また、誤嚥やAEDの講習など受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。また、災害時の備蓄も準備している。	災害訓練は、消防署の指導を得て、規定回数を実施している。緊急時の通報、連絡網には地域関係者も名を連ね、協力体制を整えている。災害マニュアルと応分の備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。また、利用者からの声には、受容と傾聴の姿勢で対応するよう努めている。	利用者の訴えや要望に耳を傾け、むやみに否定しないようにしている。利用者一人ひとりの生活歴や、生活習慣を尊重し、環境の変化で不安を与えないように心がけている。身体介助では、特に羞恥心に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や態度から、利用者の思いをくみ取り、それを表出出来るよう働きかけ、本人が自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活に対する思いや希望を尊重し、一人一人のペースに合わせるよう努めている。また、集団生活の中でも、出来る限り希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやオシャレが自己決定出来るよう支援している。3ヶ月ごとに美容師に来所してもらいカットしてもらっている。行きつけのある方は、家族に協力して頂き、カットに行かされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを利用者の残存能力を活かしながら行ってもらっている。献立を書き出し、説明をすることにより食事への興味や期待を高め、楽しんで食べてもらっている。また、週4回は利用者の好み旬の食材を取り入れた献立を立て喜んで頂けるよう支援している。	管理栄養士が、利用者の嗜好にも配慮しながら献立を作成している。食前に食事内容を説明することで、興味や期待感を高め、食べ残しなく完食に繋がるよう工夫している。利用者は、個々の能力に応じて、準備や片づけ等に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が栄養のバランスを考え立てている。また、食事摂取量は、毎食チェックし、変化があれば主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。水分は、一人一人に合わせて回数や形態をかえ、必要量摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人の状態や残存能力を把握し、それぞれに適した口腔ケアや清潔保持が出来るよう支援している。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせて介助を行い、失敗が少なくなるような支援を行っている。また、夜間は個々の状態に合わせ、安全面に配慮した支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせて、失敗を減らせるよう、声かけと介助を行い、自立につなげている。夜間は、状態に合わせてポータブルトイレを居室に備えるなど、安全と安眠にも配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など運動を日課の中に取り入れている。また、医師による服薬コントロールや水分補給に気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分を考慮し、本人と相談しながら入浴の順番を調整している。拒否される利用者には、タイミングを変えたり清拭で清潔を保つなど柔軟に対応している。	入浴は、その日の利用者の気分や希望に応じ、嫌がる人には無理強いせず、タイミングを工夫している。足湯では、水虫の治癒に効果を上げている。介助者との相性にも配慮しながら、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝具を持ってきてもらい安心して休息してもらっている。また、体調や気分にあわせて休息されたり、換気や室温に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。服薬時は、名前と日にちを再度確認し、誤薬に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人一人に合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関やドライブ・玄関先での外気浴などを楽しんで頂いている。また、家族の協力のもと、喫茶店に外出や自宅での外泊などができるよう支援している。	日常は玄関先の広場で外気に触れている。ドライブを兼ねて、城下町や道の駅、花見などへも出かけている。また、市内の学芸会館を見学したり、家族とも美容院や喫茶店など、馴染みの場所へ外出している。	

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本施設が行なっているが、希望時には施設が立替で使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は、夜間でも家族と電話連絡が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動風景を写真で掲示したり、作成した作品を掲示することで、季節感を感じ取って頂けるよう工夫している。	全体的に木のぬくもりがあり、床暖房も備えている。要所に観葉植物や花を飾り、壁には、手づくり作品を掲示している。畳コーナーもあり、生活感ある家庭的な雰囲気の中で、利用者は居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人に合わせた、過ごし方が出来るよう気を配っている。また、ゲームをしたり作業をしたりするときは、テーブルの席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の好きな物を置けるようにしている。安全面を考え本人と相談しながら、居心地の良い空間になるようにしている。また家族の面会時には居室でゆっくりと過ごすことができるように支援している。	居室の表札は、大きな文字で利用者の目線に合わせて掲示している。室内には、洗面台とクローゼットがあり、機能的な空間を確保している。馴染みの物を好みに配置し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全を考慮しつつ一人一人に分かるよう案内板を表示している。また本人の残存能力を把握した上で、家事(洗濯干し、食器洗い)等を一緒に行ないながら支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家 (B棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	令和元年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(B棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や祭りへの参加、協力を行い地域の一員として交流を図っている。また、中高生の体験実習の受け入れや、各種ボランティアの参加を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に回覧等で声を掛け、バラの家での活動に参加してもらうことで、認知症の人を理解してもらえよう取組を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを実施している。また身体拘束対策委員会を中心に3ヶ月に1回カンファレンスの中で身体拘束防止の勉強会を実施している。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に研修には参加しているが経験が、少なく支援できる体制が万全とは言えない。必要なケースが発生したら、地域包括支援センターに相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、家族に近状報告書を送っている。また面会時に気楽に話ができる雰囲気を作れるよう努めている。家族に出来る限り運営推進委員会に参加して頂き全体的、個別的な話し合いを行っている。要望等は、カンファレンスで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職が上がることで昇給に反映させている。また、資格修得に向け会社が協力し、安心して資格が修得していけるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けられるよう支援している。日頃の業務の中でもアドバイスや指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。また関係機関の研修や勉強会の案内を業務日誌に掲載し自由に参加できるようにしている。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接で、施設内の見学や本人と話をすることで、本人の不安または要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接で、家族に施設内の見学をもらい、現在家族の悩み、不安・要望などを聞き、その希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接で、本人、家族の希望・要望を聞くことで、必要とする支援を見極め、対応できるよう職員間で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、暮らしを共にする者として、利用者と話をしたり、一緒に作業や活動の中で、互いに関わる時間を大切にし、安心して共に生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を月1回、バラ便りで家族に報告。また、本人の希望や体調の変化時には電話連絡にて対応している。家族の無理のない程度で面会や外出の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会時は、本人の居宅でゆっくり話ができるよう支援している。また家族にお願いして散歩やドライブに連れ出してもらったり、自宅へ外出をされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・特徴・利用者同士の人間関係などの把握に努め、1人1人に合った活動や利用者同士が関わり合い、支えながら生活出来るよう支援している。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後、次のサービスへの情報提供を行なっている。また契約終了後も、依頼があれば相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話など本人と話をすることで、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な方には、本人の思いを表情や行動から汲み取り、また家族にも相談しながら本人の思いに寄り添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの暮らしや楽しみなどをサマリーや本人・家族と話をして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの有する力を見極め、月1回のカンファレンスで話し合い、現状の把握や職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に対して担当職員を決め、本人の希望や家族の要望を聞き、月1回のカンファレンスで話し合いを行なっている。今その方に必要なケアプラン作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・ケアの実践や結果・気づきやアドバイスなど介護記録に記入し、職員間の情報共有やケアプランの見直し等に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望、要望に添えるよう、カンファレンスで話し合いながら、ニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び、話相手)等地域住民の方達の参加も頂きながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の状態を把握し、本人や家族の希望確認しながら主治医を決定している。主治医による定期的な往診を月に2回行っている。また、急変時は病院に付き添い受診等の支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2ユニットに1名配置し、夜間帯や急変時には連絡し指示を受けたり、状態によっては駆けつけてもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の身体状況や生活状況の情報をサマリーで提供している。またケースワーカーと常に情報交換し、退院時にはスムーズに施設での生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に今後の方向性を本人、家族に確認している。また本人の状態を見ながら、その都度話し合いの機会を設けている。重度化した場合には、主治医に報告、相談し本人や家族と話し合い方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故発生時に備え、24時間対応出来るように医療連携体制をとっている。事故発生時には、事故報告書を作成し、職員間で共有し対策を検討している。また、誤嚥やAEDの講習などを定期的に受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。また、災害時用の備蓄も保存。備蓄については定期的に管理栄養士と連携し保存期間を確認等を行なっている。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、受容と傾聴に努め、誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を築き、思いや希望を表出してもらえよう働きかけている。また、本人の様子からも気持ちを汲み取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、心身の状態に合わせて居室で過ごして頂いたり、手作業、テレビ鑑賞、ゲーム等好きな事を行なって頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみができるよう、好みに合った服を選んで頂けるよう支援している。また、3ヶ月に1度の割合で頭髪のカットができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と共にこなしている。また、利用者の好みの食品や季節を感じる食材を献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が栄養のバランスを考えて立てている。食事摂取量は毎日チェックし変化があれば、主治医や管理栄養士に報告、相談し指示を仰いでいる。水分は一人ひとりに合わせて回数、形態などを変えて必要量摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに適した口腔ケアを、利用者の残存能力を活かしながら支援している。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は本人のできる力を見極め、声掛け・見守り・一部介助を行なっている。また、個々の様子を観察することで、排泄パターンを把握し声掛けや誘導をすることで、失敗を少なくできるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給の中で、利用者の状態に合わせて個々にオリゴ糖を使用したり、体操や散歩などを行なっている。また、医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回のローテーションで入浴を行なっている。利用者の体調を考慮したり、順番のこだわりや拒否される利用者にはタイミングを図り柔軟に対応している。体調不良で入浴が出来ない場合は清拭や足浴、シャワーなどで清潔を保てるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢な方が多く健康管理を含め日中に1時間程度の休息してもらっている。また換気や室温に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬用のファイルを作成し、服薬している薬の目的や副作用など職員全員が確認できるようにしている。内服時は名前と日時を声に出して再確認し、手渡し、または一部介助にて服用確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中で、本人の生活歴や経験を把握し、一人一人に合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望がある場合はドライブ・散歩・玄関先での外気浴などを楽しんで頂いている。また、家族の協力のもと外出・外泊などができるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム「郡上八幡バラの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本施設が行なっているが、本人の希望があった場合は、施設立替にて買物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、いつでも電話をしたり、手紙や葉書のやりとりができるなど安心して生活が送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所が分かるよう入り口に貼り紙をしている。毎月、季節を感じられる作品を利用者と作成し、居間や居室入り口に飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にある机を皆で囲み、カルタや数字合わせ等のゲームを楽しまれたり、また個別で塗り絵や作品作りを楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や馴染みの物・夫や家族の写真など持って来て頂き、少しでも落ち着ける空間を作れるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活ができるよう、ベットの柵や手摺りをつけたり、夜間はトイレを設置し、1人でも安全に排泄ができるよう工夫している。		